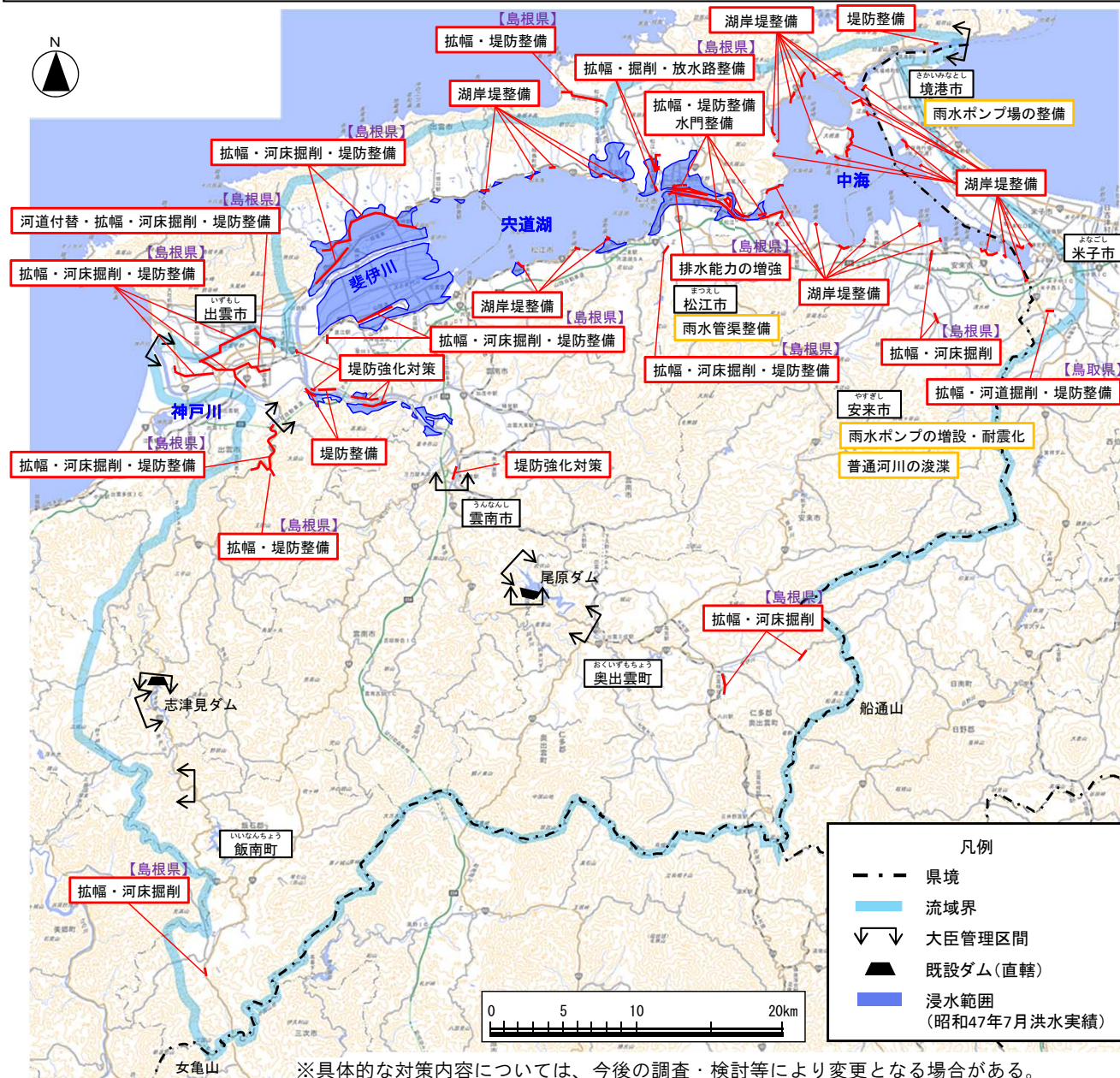


○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、斐伊川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和47年7月洪水と同規模の洪水に対して、家屋浸水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

■河川における対策

対策内容 堤防（湖岸堤含む）整備、河床掘削、拡幅、河道付替、放水路、水門整備、排水能力の増強、堤防強化対策等

■流域における対策

- ・ 下水道等の排水施設（雨水管渠、雨水ポンプ場等）の整備
- ・ 普通河川の浚渫
- ・ 利水ダム等11ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、島根県、島根県企業局、松江市、出雲市、奥出雲町 土地改良区、中国電力（株））等

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

- ・ 水位計・監視カメラ等の設置
- ・ 情報配信ツールを活用した防災情報の提供
- ・ 定住外国人等を対象とした避難情報の提供
- ・ 洪水ハザードマップ等の更新・配布
- ・ 高潮浸水シミュレーション（想定最大規模）の実施・公表
- ・ タイムラインに基づく実践的な水防演習等の実施
- ・ 感染症にも配慮した避難しやすい避難所環境の整備
- ・ 要配慮者利用施設の管理者が策定する避難確保計画作成支援
- ・ 出前講座・講習会等による地域住民の防災知識の普及・啓発
- ・ 小中学校等と連携した防災教育の拡充
- ・ 商工会議所等と連携した企業向け防災教育及び自衛訓練等の実施
- ・ 地域防災リーダーの育成
- ・ マイ・タイムライン等の作成支援 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

